
銀河鉄道 9 9 9 ~ アクエリアスの海 ~

沖田五十六

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀河鉄道999 ～アクエリアスの海～

【Nコード】

N7377M

【作者名】

沖田五十六

【あらすじ】

銀河鉄道がたどり着いた駅、それは巨大な氷原だった。その中に眠る1隻の船。

松本零士の2つのアニメのコラボ作品です。

無限に広がる大宇宙。その宇宙の星と星とを繋ぐ鉄道、それが銀河鉄道である。そのうちの一つ、銀河超特急「999」は「アクエリアスの海」と呼ばれる氷原の前に来ていた。

「えー、次の停車駅はアクエリアスの海、停車時間は41分と47秒です。」

車掌が乗客にそう伝えた。と、言っても2人しかいないが。

「アクエリアスの海？」

乗客の1人、星野鉄郎が車掌に聞いた。

「はい。何でも、昔どこかの星に近づいた水惑星「アクエリアス」の水を断ち切り、その星を救った戦艦が眠っているとか。」

「ふーん。車掌さん、その戦艦の名前は？」

鉄郎が車掌に聞いた。

「確か・・・ヤマ何とかだったかな？」

「ふーん。」

(なんかどっかで聞いた事あったような気が・・・)

鉄郎がそんな事を思っている間に999号はアクエリアスの海に到着した。

「あれ？ここ、宇宙のはずなのに空気がある。」

鉄郎が、アクエリアスの海に降りて言った。

「ねえメートル。なんで空気があるの？」

鉄郎は999号のもう一人の乗客、メートルに聞いた。

「それは、ここに眠っている戦艦から漏れた空気が周辺を覆っているからよ。重力があるのも、戦艦のおかげ。」

「ふーん。そうだ、その戦艦って今も見れるの？」

「ええ。この下に見えてるわ。」

「ええ！」

鉄郎が真下を見た。すると、巨大な船体と艦橋が見えた。そして、その船体に開いている穴も。

「凄い大きいな。これ何処の戦艦なの？」

「……地球よ。」

「え！？地球の戦艦！？」

「そう。名前は、宇宙戦艦ヤマト。伝説の戦艦よ。」

鉄郎はショックを受け、思い出した。

宇宙戦艦ヤマト。大昔、何度も地球を救った伝説の戦艦。この戦艦が無ければ、ここには自分が居なかっただろう。

鉄郎はそう思った。そして、艦橋に眠っている人影を見つけた。

「あの人はい？」

「沖田十三さんよ。ヤマト初代艦長にして最後の艦長。あの方は、自分の命を捨てて地球を救った。」

沖田十三。この人も知っている、と鉄郎は思った。

「ここはお墓なの。だからここに来る人はほとんど居ないの。ある人たちを除いてね。」

その後、鉄郎とメーテルは999に戻っていった。そして、銀河鉄道999号はアクエリアスの海を出発した。

「次の停車駅は、惑星エメラルドです。停車時間は」

車掌が何か言っているみたいだが、鉄郎には聞こえていなかった。

（ヤマトか。一度乗員に会いたかったな。）

ふと、窓の外を見てみた。すると、光り輝く物体が999の隣を飛

んでいた。

「な、なんだあれ！」

鉄郎が驚いて言った。よく見てみると、船体や艦橋、主砲などが見て取れる。

「なんで、ヤマトが……」

すると、車掌が言った。

「そういえば今日はあの船の命日でしたね。あの物体はヤマトの幽霊……とでも言っておきましょう。」

「そうなんだ。」

鉄郎はふとヤマトの甲板を見た。すると、沖田十三の姿があった。他のクルー達もである。その人達がこちらに向かって敬礼をしていた。鉄郎は、その人達に対して敬礼をした。すると、ヤマトが光を失っていき、最終的には消えていった。

「メーテル、あの戦艦の人達はどんな人達だったのかな。」

「勇敢で、優しい人達だったそうよ。」

メーテルが言った。

・
・
銀河鉄道999はその後も旅を続けている。エターナル銀河まで……

(後書き)

ご感想、ご意見をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7377m/>

銀河鉄道999 ~アクエリアスの海~

2010年10月10日04時45分発行